

IBAだより

第13号

《 茨城県吹奏楽指導者協会 》

平成30年9月22日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原征剛

事務局 水戸市緑町1-10-26 島田博正

会長就任のご挨拶

茨城県吹奏楽指導者協会 会長 梶原 征剛

私たち、茨城県吹奏楽指導者協会（IBA）の会長でありました、桑原三雄氏が前年度で勇退され、その後任として、多くの会員の方々からの推薦を受けて、私、梶原征剛が今年度より、新たに会長をお引き受けすることとなりました。今後、これまで歩いてきた当協会の運営方針に沿って、誠に微力ではありますが、会員一同とともに、更なる発展を目指して、誠心誠意務めさせて頂きたいと思っております。どうぞ、今までと変わりなく、ご指導の程をお願い申し上げます。

さて、当協会の主催である「ソロコンテストいばらき」は昨年度で20回の節目を過ぎ、吹奏楽界で大きなイベントの「吹奏楽コンクール」や「アンサンブルコンテスト」と同じように確固たる地位を築けたと思っております。そして、この中から、県の代表として選ばれた人たちが、関東甲信越大会を始め、全日本大会においても、優秀な成績を収めるなど、その質の高さに、私はいつも驚かされております。また、特筆すべきは、このコンテストの出身者の中から、現在、プロの演奏家としてリサイタルや各種演奏会、さらに、TVやFM放送等の番組で活躍する人たちの姿を見る度に、私はこのコンテストが質・量ともに、全国でも群を抜いて高いレベルを持っているものと確信しております。

「ソロコンテストいばらき」は毎年、700名近くの参加者を得て、20年間に亘って発展してまいりました。ここで、参加者の皆さん方へ、私が日ごろから思っていることをひと言申し上げます。それは、皆さん方が、今、手にしている楽器を、これからもずっと続けて欲しいと強く願っていることです。どの楽器も上達するには大変な努力が必要なのは当然ですが、しかし、「継続は力なり」と言う格言にもあるように、毎日のひたむきな練習を続けることでわずかな上達生み、さらに、それを積み重ねることで、次の大きな目標を可能にしてくれるものなのです。そして、さらに、自分の楽器を通して、様々な音楽の知識を吸収しながら、これまで、仲良くして来た楽器を、これからも、生涯の友として一緒に過ごして行くことが出来れば、こんなに素晴らしいことはない。と、私は思うのですが、皆さん方はどのように思われますか・・・？

話は変わりますが、ここで、先生方へお願いです。この「IBAだより」で、私はいつも児童・生徒たちに向けて書いていますので、是非とも、彼らに読んで欲しいと思っております。ご配慮の程をお願いいたします。また、ついでながら、なるべく多くの練習が出来る環境を彼らに与えて欲しいとも思っております。こちら、どうぞ、よろしく願い申し上げます。

末筆になりましたが、この「ソロコンテストいばらき」の発足以来、ご支援を賜っております、「公益財団法人 げんでん ふれあい茨城財団」の方々には、厚く感謝申し上げますとともに、さらに、今後とも、ご協力のほど、よろしく願いを申し上げる次第であります。

(茨城大学 名誉教授)

更なる発展を

茨城県吹奏楽指導者協会 相談役 桑原 三雄

私は茨城県吹奏楽指導者協会に、平成15年度～29年度の15年間の長きに亘り在籍いたしました。その間、一次審査の審査員・事務局長・会長の重責を果たさせていただきました。現在は、相談役という立場から、微力ではありますが協会発展に尽くしていきたいと考えております。

茨城県吹奏楽指導者協会は、ソロコンテストを実施するために発足した団体です。始めは、茨城県吹奏楽連盟がソロコンテストを担当しておりましたが、諸事情により、その担当を外れることになり、関東甲信越大会に県代表を送れないという状況になりました。それでは残念ということで、何としてもソロコンテストを継続させたいと、教職を退職し、県吹連の役員を歴任した先生方7人（7人の侍と自讃していた）が中心となって、茨城県吹奏楽指導者協会が平成14年度に設立されました。その後、新しい人達の参加を得、現役の若手で新進気鋭の先生方も加わり、今日に至っております。

この16年間で、一次審査には、年500名（29年度は656名）として、約8,000名の参加があったこととなります。県代表として、中学生・高校生それぞれ80名（年5名）を関東甲信越大会に推薦し、その中から、中学生10名・高校生15名が難関の全日本大会にまで進みました。全国1位・2位・3位・審査員賞等を獲得するなど、輝かしい実績を残してくれました。そして、その人たちが現在、中央の音楽界で大活躍をしているというのを聞き、誠に嬉しい限りです。

現在、毎年600名前後の参加者のあるソロコンテストを実施しているのは、全国的にみても、茨城県がトップであることは間違いありません。茨城県吹奏楽指導者協会の存在が如何に大きいかが分かります。

豊かな音楽性を身につけた有為な人材を更に育成して欲しいと願っております。

茨城県吹奏楽指導者協会の更なる発展を祈念いたします。

「二度目の全国大会への挑戦」

ひたちなか市立大島中学校

現 水戸女子高等学校 関根 美羽

昨年初めてこのソロコンテストに挑戦して全国大会へ出場することができた嬉しさと、結果を出すことが出来なかった悔しさから、もっと上手になりたい、音楽をもっと勉強したいと思うようになりました。そしてもう一度あの舞台上で演奏したいという強い気持ちで2年続けたの挑戦を決意しました。

今回演奏した「ソロ・ド・コンクール」では、音の跳躍が多い中でも正確に吹く技術や、8分の12拍子という変拍子を表現するリズム感、ゆったりとした中間部を歌い上げる音楽性などに注意して練習を重ねてきました。また、場面による表情の変化をつくりだすことを意識し、聴いている人に感動を届けられる演奏を目指しました。四分間集中して楽しんで演奏した結果、審査員特別賞を頂くことが出来ました。去年よりも自分が成長できたことと、演奏を評価してもらえたことが本当に嬉しかったです。

これまでご指導いただいた先生方や、何度も伴奏合わせにお付き合い頂いたピアノの先生、そしていつも応援してくれた家族。たくさんの人に支えられ感謝の気持ちで一杯です。

本番の緊張感と演奏出来る喜びをこのソロコンテストで経験することができました。この先も音楽を続けていきたい、もっと上手になりたい、そう思う気持ちは一層深まりました。

音楽を楽しむことを忘れずに今後も様々な演奏に挑戦していきます。

【平成29年度ソロコンテスト全日本大会中学生部門 審査員須山芳博賞受賞者】

「受賞の嬉しさを糧に、これからも成長を」

鉾田市立鉾田南中学校

現 水戸女子高等学校 加藤 萌

この度は、このような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。

昨年、私は初めてソロコンテストに出場させていただきました。その際、私は出場にあたっての目標を、「関東甲信越支部大会出場」と決めて日々修練に努め、結果として金賞を頂くことはできましたが、目標であった「推薦」を勝ち取ることは、叶いませんでした。あと一步でその目標に手が届くところまで行きながら、その切符を掴むことができず、本当に悔しい気持ちでいっぱいになりました。そして、この悔しさをバネに、私は来年も必ずソロコンテストに出場し、「関東甲信越支部大会出場」の夢を絶対に叶えようと心に誓いました。

楽曲選択にあたっては、私は今までの自分を超越するために、敢えて自分が得意としていなかった、曲想の速いパッセージのある曲を選ぶことにしました。その結果、今まで自分の中でまだまだ足りていないと感じていた連符、表現力を身につけることができました。

恩師の先生、励ましてくれた友達、そしていつも優しく支えてくれた両親、皆様の助けがあったことで、「小串俊寿賞」を頂くことができ、改めて心から感謝の気持ちでいっぱいです。

ソロコンテスト出場を通して学ぶこともとても多くあり、私が高校で部活を続ける上でも、コンテストの経験が生かされるのがとても多いです。ソロで吹くことにより、全体で吹いている中で一人一人の音の大切さも意識することができ、とても成長することができて、ソロコンテストに出場して本当に良かったと思います。これからも、この関東甲信越支部大会で「小串俊寿賞」を頂くことができたことを誇りに思い、部活動で日々精進していきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

【平成29年度ソロコンテスト関東甲信越支部大会中学生の部 審査員小串俊寿賞受賞者】

JBA関東甲信越支部「第16回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA茨城県部会事務局長 古井 忍

平成30年2月25日(日)東京音楽大学Jスタジオにおいて、JBA関東甲信越支部「第16回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」が行われました。茨城からは、「第20回ソロコンテストいばらき」で代表になった中学生5名、高校生5名が出場しました。この大会は、東京・神奈川、千葉、埼玉、栃木、茨城、山梨、新潟の代表62名が参加し、全国でもレベルの高い大会です。今大会も、それぞれの楽器で高い音楽性と技術を披露し、白熱した演奏会となりました。

茨城県の出場者では、ひたちなか市立大島中学校3年の関根美羽さん(トランペット)が、伸びやかで艶のある音色と見事な奏法で昨年に引き続き第1位と関東甲信越支部長賞を獲得し、全日本大会出場を果たしました。関根さんのピアノ伴奏を行った磯野舞さんもBest Duet賞を受賞しました。さらに鉾田市立鉾田南中学校3年の加藤萌さん(アルト・サクソフォン)が小串俊寿審査員特別賞を受賞しました。高校生の部では残念ながら入賞者はいませんでしたでしたが、出場された方全員が日頃の練習の成果を発揮して素晴らしい演奏を披露し、優秀賞をいただきました。

さらに、演奏終了後に行われた特別演奏では、「第20回ソロコンテストいばらき」でげんでん音楽大賞を受賞した水戸市立三の丸小学校6年の池澤梨音さん(クラリネット)が「5つのディヴェルティメント第2番第4・5楽章」(モーツァルト作曲)を演奏して会場から大きな拍手をいただきました。今年も茨城県の小学生のレベルの高さを、会場の方々には知っていただくことができました。

関東甲信越支部ソロコンテストで演奏された11名の方は、茨城県の代表として音楽的にも技術的にもレベルの高い演奏を披露してくださいました。

<< 事務局より >>

I B A事務局長 島田 博正

今年度のソロコンテストいばらき日程

- ソロコンテスト一次審査 H31.1/5(土)~6(日)・1/12(土)~13(日) ひたちなか市文化会館(予定)
- ソロコンテスト県大会 H31.2/10(日)・11(祝月) 筑西市明野公民館(決定)

昨年度は、県内5地区から656名の一次審査参加がありました。県大会では、小学生8名、中学生74名、高校生59名が素晴らしい演奏をホールいっぱいに響かせ、関東甲信越支部大会に中学生5名・高校生5名が推薦され、中学生1名が全日本の大会に進みました。今年度もたくさんの皆さんが参加され、素晴らしい演奏をして下さることを期待しています。

CDの処理について

昨年度、各学校から送られたCDに参加申込者一覧の順に学校名・番号・氏名が記されていないものや、氏名の誤記等がいくつかありました。地区事務局担当者に送る際に確認をしていただけると審査が円滑に進行できると思いますので、お願いいたします。また、書類等の提出については、参加要項の4を確認していただき間違いの無いようご協力をお願いいたします。

平成29年度 第20回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県大会出場状況

	一次審査	県大会	
小学生	県央	12	6
	県東	3	1
	県南		
	県西	1	1
	県北		
計	16	8	

	一次審査	県大会	
中学生	県央	110	18
	県東	62	10
	県南	99	15
	県西	104	21
	県北	75	10
計	450	74	

	一次審査	県大会	
高校生	県央	59	19
	県東	23	8
	県南	45	14
	県西	40	10
	県北	23	8
計	190	59	

「げんでん財団」は

ふれあいとゆとりある

地域づくりに貢献します

(公財) げんでん ふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 東海事務所内(東海村白方1-1) TEL. 029-287-1251
水戸連絡事務所内(水戸市笠原町978-25) TEL. 029-301-1511